

水稲新品種「オオヨド」について

曾我義雄・藤吉清次・新村善弘・上野貞一・衛藤信男
(宮崎県農業試験場)

南海地帯の普通期水稲は、風水害、病虫害及び秋落などの災害を受け易く、これら災害に対する抵抗性品種の育成が要望されている。この品種は前記の要望に対しては未だ十分とは言えないが、昭和36年に育成を終り、昭和37年宮崎県の奨励品種に採用、普及されることになったので、育成の経過並びに特性の概要を述べて参考に供する。

来歴並びに育成経過

オオヨドは昭和28年宮崎県農業試験場において(宝×全勝26号)F₁を母とし、関東53号を父として人工交配を行い、F₁は硝子室で越冬栽培して世代短縮をはかり、F₂は晩播晩植して葉イモチ病耐病個体を選抜した。その後も同場で選抜固定をはかり、昭和34年「南海19号」の系統名で関係県に配付して地方的適否を確め、昭和37年7月に「水稲農林142号」に登録され、オオヨドと命名された。

特性概要

1. 形態的特性 科長は宝程度のやや長粒種で、穂長は農林18号より短く、穂数はかなり多い中間型の品種である。葉身は狭くて短く、止葉は立ち、葉色は濃緑である。稈はやや細く、粒着中位で無芒、脱粒は難である。玄米の形状は中で粒張りがよく、腹白はあるが品質は比較的良好で食味もよい。

2. 生態的特性 熟期は農林18号と同程度の晩生類

種で、葉イモチ病並びに穂イモチ病耐病性はほまれ錦並の強に属し、白葉枯病耐病性は、農林27号程度でやや強、紋枯病には幾分弱い。胡麻葉枯病の発生は少ない。倒伏性は農林18号よりやや強い程度の弱稈で、多肥栽培や極く肥沃地では倒伏のおそれがある。収量は農林18号程度である。

適地及び栽培上の注意

1. 適地 暖地秋落地帯で、イモチ病、白葉枯病の多発する地力中庸なところの普通期並びに晩植、晩期栽培に適する。宮崎県では霧島盆地及び沿海中・北部のイモチ病及び白葉枯病多発地帯に適する。

2. 栽培上の注意 この品種は稈があまり強くないので、多肥栽培や極く肥沃地での栽培はさけた方がよい。

命名の由来

大淀河畔のイモチ病、白葉枯病の常発する地帯に好適し、又育成地が大淀川南の大淀地区に位置していることを示す。

結 言

この品種はイモチ病には極めて強い耐病性をもっており、白葉枯病にもかなり強いが、科がやや弱いので、多肥栽培や極く肥沃地での栽培には適しない。収量、品質の面では農林18号並で、暖地秋落地帯のイモチ病、白葉枯病常発地における普及が期待される。

第1表 耐病性検定試験成績

年次	名病		葉イモチ病				穂首イモチ病			白葉枯病		紋枯病
	検定地	育成地	稲橋	育成地	天草	稲橋	長崎	高城	兵庫	大分		
32		や、強		極強	強			中	強		や、強	
33		強		強				や	強		や、弱	
34		強	強	強				や	強		弱	
35		強	中強	強			強	や	強		弱	
36		強	強			強	強	や	強		普通	

第2表 配付先における成績総括表

年次	配付所数	概 評				普 肥			多 肥		
		有 望	や、有望	再 検 討	見 込 な し	以 上	未 満	以 上	未 満		
32	3	1	—	2	—	2	1	—	—		
33	3	1	—	2	—	2	1	—	—		
34	17	3	6	6	2	11	6	4	—		
35	17	2	6	1	8	7	10	3	2		
36	6	3	—	2	1	3	3	1	2		